

令和7年度 第3回「プロジェクトマネジメント研修カリキュラム開発分科会」報告

1 日時 令和7年 8月26日(火) 15:00～17:00

2 場所 産業技術短期大学校 西館棟(西キャンパス) 特別教室5

3 分科会委員

(座長) 筒井 潔	アジアパシフィックコーポレーション(株)
丹羽 良和	日産自動車(株)
高橋 哲也	ポリテクセンター関東
土屋 春香	日本ディクス(株)
斉藤 光弘	神奈川県立産業技術総合研究所
加藤 勝彦	(株)キャリアサポート湘南
菅原 征江	(株)クボテック
神馬香代子	(株)アイ・ディー・エクス
旭 馨	神奈川大学
伊藤千珠代	オフィス マウミ
小山 宏	西部総合職業技術校
田村 守	横浜経理専門学校
人材育成支援センター(事務局)	
田中 暁	人材育成支援センター所長
酒井 博之	〃 職業訓練推進員
津久井二郎	〃 主査
植村 道忠	〃 人材育成コーディネータ

*分科会委員の出欠

出席者： 筒井座長、丹羽委員、菅原委員、高橋委員、斉藤委員、神馬委員、土屋委員、小山委員、
(人材育成支援センター 津久井、酒井、植村)

4 内容

ア プログラム構成について

① タイムマネジメントと優先順位判断

- ・タイムの感覚は無く、優先順位と体で感じた判断でするかしないか
- ・会社の仕事である以上、タイムマネジメントは重要だし、できる人にやってもらう
- ・フェーズ毎に支障リスト化、対応策を検討し、KT法などで皆の関心事を分別して実現していく
- ・予定よりずれた場合、事前にショックアブソーバーを用意しておくことも必要
- ・教育機関でも予定通りにいかない場合、グループ討議で対応し共有することもある
- ・当たり前のことを、愚直にやること、できることをやる、粛々とやることが重要
- ・それはプロが粛々とやるということ
- ・プロジェクトマネジメントはリスクマネジメントではなく、レジリエンスマネジメントだと考えている

② ステークホルダー・マネジメントについて

- ・関係者の分析、利害調整、合意形成、クレーム対応、対立対応の方法などより深い知識に紐づけることができるのでないか
- ・これはリーダーの仕事

③ アジャイル、ウォーターフォールなどの手法理解

- ・昨今、業界問わずアジャイル的な動き方を求められるケースが増加している
- ・従来の枠を超えた柔軟な対応法を知りたい

イ プロジェクトの構想例：レジリエントなスマートシティ創生計画（仮）について

- ・道路無き都市化
- ・地域エコシステム形成
- ・空モビリティ産業の創生
- ・空飛ぶ車の市場（イギリス、アメリカ、ドイツ、ブラジルにベンチャー企業が存在）
- ・エンジンがコアであり、機体は二の次
- ・空港の空モビハブ化提案
- ・安定的なデータを取るための空港を持っているかが重要
- ・リスクマネジメントからレジリエンスマネジメントへ
- ・能登半島地震の教訓の一つ：迅速な被災地への侵入のための海路や空路の活用
- ・産業都市とインキュベーションビジネス
- ・労働生産性ではなく資本生産性
- ・投資対象になれるかどうか重要

ウ 本研修について

- ・プロジェクトの成功の要素について学ぶ
- ・期待され、任された「あなた」に気づく
- ・リスクマネジメントからレジリエンスマネジメントを基本とする
（レジリエンスとは、ショックが起こった時に対策を講じて、その後の事態に対応し元の状態に復帰しようとする能力）
- ・プロジェクトマネジメントの体系的知識と能力については基本として取り扱うが、それだけを教えるセミナーはいくらでもあり、この講座では成功に導く重要な判断にリソースを集中させるコツを独特なケースを取り上げることで、他との差別化できる講座にできるのではないかと
・この方向で以降も検討していきたい

エ 次回（第4回）について

（日時）令和7年9月24日（水）15:00～17:00

（会場）産業技術短期大学校 西キャンパス特別教室5

（内容）「研修プログラムの基本」の続き

※ 他との差別化を図る講座（プロジェクトを成功に導く重要な判断とコツ）を構築する
以上